

第五年目(三十二年)	三四二	三四〇	六八二
第六年目(三十三年)	一三六六	一三六四	二七三〇

猫輸入後僅かに六年にして、已に合計二七三〇匹の巨數となる割合なり。假りに其中生育せざる者あり、或は半途にして斃るゝ者ありとし、之を除算するも、二千頭の猫は此小島中に棲息する次第なり。本島の主要なる物産は鳥なるに、此の如き大害ある猫の夥多生存し、暴爪兇牙を擅にする。豈寒心せざるを得んや、已に前車の覆るあり、后車たる者、最此猫撲滅の策を計る可きなり。

日本の大地震に就きて

(震災豫防調査會報告第三十二號より該會の承諾を得て、茲に掲ぐるものなり。)

理學博士 大 森 房 吉

本篇は故關谷博士の下に成れる日本地震史料目錄の調査補遺と見做すべきものなり。大地震の數、嚮に震災豫防調査會報告第二十六號に述べたる如く、我國最舊の地震記録は允恭天皇即位五年(西曆四百十六年)に始まり、爾後明治三十一年(西曆千八百九十八年)八月福岡縣地震に至る迄千四百八十二年間、日本全國中(臺灣を除く)に二百二十三回大地震ありたり。詳しき事を知らんと欲せば、震災豫防調査會報告第二十六號を見られよ。但し爰に大地震と稱するは土地の陥落龜裂著しき家屋の被害、人命の損失等あるもの以上をいふなり。(地震の回數を嘗て二百二十二回)

を調査するに左の如し

震原 二百二十三回 大地震の内琉球諸島に關する分二回を除きて、他の二百二十一回の震原

- | | | | |
|------------------------------------------|--------|------------------------|------|
| (1) 太平洋より發せる大地震 | 三十五回 | (2) 日本海より發せる大地震 | 十六回 |
| (3) 陸地内より發せる大地震 | 百〇六回 | (4) 瀬戸内海より發せる大地震 | 二回 |
| (5) 少し判明ならざれども太平洋中或は其海岸に近き處より發せりと認むべき大地震 | 二十三回 | (6) 全上日本海より發せりと認むべき大地震 | 一回 |
| (7) 全上陸地内より發せりと認むべき大地震 | 十五回 | (8) 不明 | 二十三回 |
| 合計 | 二百二十一回 | | |

上表に依れば、二百二十一回大地震の中殆んど二分一數即ち百〇六回は陸地内に發震し、太平洋若くは日本海中より發震せるものよりも其數遙かに夥多なるを見るべし。今太平洋日本海及び陸地内より發せる大地震の回數を得ん爲め、(5)(6)(7)の如く震原の少しく判然せざるものは暫く其數の二分一を取り、之を各々(1)(2)(3)に加へたる結果を取るべし。

太平洋より發せる大地震推測回數

四十七回

$[(1) + 1/2 \times (5) = 47]$

論 說 (日本の大地震に就きて)